

(公社)日本造園学会 中部支部 2020年度支部総会資料に下記のご質問が寄せられましたので、事務局より回答させていただきます。

<質問1>

決算及び予算の資料について質問させていただきます。

おそらく慣習的にこのような予算書と決算書を作成してきているものと思われていますが、あまり一般的な様式ではないように思います。

いくつか気が付いたことを列記します。

・一般には、収入の部と支出の部を分けて記載すると思います。

現在の表のように一つの表に収入と支出を混在させると、収支のバランス状況が見えにくくなります。(どの数字を見れば赤字か黒字かの判断ができません)

A. 予算書の書式は本部から求められている書式になっていて、決算書はそれをアレンジしています。わかりにくいのですが、前年度繰越金収入の絶対値よりも支部記念事業積立金の方が上回ると単年度収支は黒字ということになります。決算書は本部に提出しないので支部独自様式にできますので、次年度以降、わかりやすい決算書の様式を検討します。また、本部では支部からの会計報告を事業別ではなく費目別でまとめた決算書を作成しているそうです。次年度以降、そちらの資料も支部総会時に提示することも検討します。

・前年度繰越金が予算と決算で異なるというのは考えにくいのですが、どのような状況でしょうか？

A. 前年度予算は1月初めに本部に提出していますので、予算での前年度繰越金は3月末までの見込みでの金額となっています。しかし、予定外の支出や収入(書籍売り上げなど)があると決算の金額との相違が出てきます。

・2019年度「翌年度繰越金」の項目がありませんが、どのような状況でしょうか？ 2020年度の予算書をみると「前年度繰越金」が「737,163」となっているので、そういう事かと思われていますが、それにしても決算書にこの項目とこの数字がないのはわかりにくく思います。

A. 公益社団法人となって会計が本部と一体化されてから、支部で発生した繰越金は本部に吸い上げられてしまうことになったと支部では認識しており、決算で繰越金(予算では

繰越見込み)を「支部記念事業積立金」と記載して、目的を持って積み立てをしているので本部には戻さないお金だと表現してきました。ただ、予算書では前年度繰越金と表現しているので整合性がとれていないのは確かです。本部事務局とも相談してみたところ、繰越金としても問題ないそうなので、次年度の予算書・本年度決算書からは繰越金として表記したいと思います。

・支部記念事業積立金の項目がありますが、おそらくこれは別会計で積み立てられているものと思います。累積でこれまでいったいどれほど積立額があるのか、その数字も周知する方がより丁寧かと思います。

A. 上記のように「支部記念事業積立金」は実際には前年度繰越金として予算に反映されており、特別会計で積み立てたものが別途あるわけではありません。

以上